

# 経尿道的尿管碎石術(TUL)を受けられる患者様へ

秋田大学医学部 泌尿器科教室

## 手術と術後経過

- 全身麻酔で手術を行います。
- 尿道から専用内視鏡をいれて結石を破砕します。
- 手術時間は30～120分程度です(石の大きさ、数、部位により異なります)。
- 手術当日から点滴を開始します。飲水と食事が十分にできると主治医が判断できた時点で終了となります(多くの場合 1～3 日です)。術後感染予防のため、手術当日に抗生剤の点滴を行います。発熱など尿路感染症が疑われる際には、抗生剤の点滴や内服を続ける場合があります。
- 手術終了後は尿道カテーテル(尿を出す管)を入れたまま帰ってきます。カテーテルは、血尿の程度をみて翌日以降に抜去します。
- 手術した尿管にも細いカテーテルを入れてきます(多くの場合、外来で抜去します)。
- 稀に以下のような結石、尿管の状況によって十分な内視鏡手術が行えない場合があります
  - 1) 尿管口の変形、むくみにより内視鏡が尿管に挿入できない。
  - 2) 尿管の屈曲、狭窄が著しく内視鏡が結石まで到達できない。
  - 3) 手術中に結石が腎臓にもどってしまった。
  - 4) 尿管や周囲臓器(血管、神経、膀胱、腸など)の損傷。

このような際には尿管カテーテル(腎臓と膀胱をつなぐ管)を入れ、翌日以降に体外衝撃波結石破砕術(ESWL)を追加することがあります。また極めて稀に4)の程度が強い場合は、開腹手術に移行する可能性があります。

- 食事は多くの場合は翌朝になります。
- 手術翌日より歩行可能です。

## 手術の合併症

- 1) 出血:血尿はほぼすべての方にみられますが、程度が強い場合は輸血や追加の処置が必要になることがあります。
- 2) 臓器の損傷:内視鏡操作や結石破砕時に尿管や周囲の臓器(血管、神経、膀胱、腸など)に傷がつくことがあります。程度により開腹手術を行うことがありますが、このような場合は極めて稀です。
- 3) 術後、尿路感染症により発熱、背部痛、排尿痛、陰嚢内容の疼痛などが生じることがあります。
- 4) 下腹部不快感:術後、尿道にカテーテルが入っているため、多くの方は違和感、不快感がみられますが、抜去後はすみやかに改善します。
- 5) その他:手術時、術後に予期せぬ合併症(肺梗塞、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血など)が生じる可能性があります(このような合併症は極めてまれですが生命に関わる場合があります)。

年 月 日

上記について説明を行いました。 氏名

上記について説明を受けました。 氏名